

「1950年代教育史」研究部会（第54回）

日時：2021年4月23日（金）13:00～15:00

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員

金沢千秋・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

欠席：吉久知延所長

内容：（1）大島研究員：「第1節 新学制における定時制分校の制度的特徴」

◆構成変更して、まず定時制課程の特徴を記述

法令上の規定、定時制課程の意義、青年学校との違い、分校設置者、財政問題など

- ・50年代は定時制が基本、60年代には全日制に
- ・定時制と青年学校は全く異なる制度→高校進学者との層の違いについて要確認
- ・定時制「分校」の規定・設置基準は現在無い
→課程全部ではなく「一部」のみの原則はあるが、実態についてわかっていない
- ・本校と設置者が異なる分校→財政問題と統廃合

（2）須田研究員：「全体構成と結論部分の内容検討」

・前回報告の修正原稿検討

静岡大学の文部省からの解散通達部分について、詳細の記述を追加

・担当章第1節5「CIEに対する論駁」→「全教連の変容」に変更

国立教育研究所が必要か？→大学附設や文部省の調査局とは違う意義強調

全教連は自治体立が中心だったが、そのなかに「大学部会」を置く案もあった

→日本教育大学協会がすでに活動

結果、大学附設の教育研究所は其々独自の活動となった

・担当章「おわりに 1950年代における自治体立・大学附設教育研究所の存在意義」

（3）9月の原稿締切に向けて研究会の進め方

8月は各自の原稿を詰めていく